

同友しずおか 2018 11

VOL.480



私の逸品

(株)ジー・ディー・エス

「心地良さ」の追求



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。



同友会 3つの目的

1

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。



2

よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。



3

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

平成30年度 重点課題

- I. 経営指針成文化の環境整備を進め、労使見解に基づく人を生かす経営の実践企業を増やします
- II. 中小企業振興基本条例運動を推進し、県・市町の行政・金融・関係機関との連携を強化し地域づくりをめざします
- III. 2020年ビジョン3年目にあたり、早期に1200名会員を達成し、支部のさらなる活性をはかります

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1068 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
あきやま ちかこ 秋山千加子	brisa flor サービス業（イベント運営／寝具小売、製造）	志太	池原 智彦

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



「心地良さ」の追求

(株)ジー・ディー・エス (浜松支部)

取締役経営企画室室長 兼 農園事業部部长

大関 泉氏



大関泉氏

「浜松の若者に楽しんでもいただき、元気になるてもらいたい！」

浜松市西区大久保町にある(株)ジー・ディー・エス。取締役の大関泉氏を訪問しました。同社の事業内容は、炭火焼肉「牛角」などのFC本部としての役割や飲食事業コンサルティングです。1998年にビオラ田町地下に「宗家にんにくや」をオープンしたことが縁で「牛角エリア本部」契約を結び、同社の継続と成長に繋がっていきました。その後、リーマンショックや東日本大震災により日本に元気がなくなっていた頃「地域を元気にしたい！」との想いから、全社員の総意で地元浜松に地域と共存する農園レストラン「緑の谷のごちそうテラスGoCoChi」を開店。さらには、世界に想いを発信する日本のリーダーとして



緑の谷のごちそうテラスGoCoChi

「心地よさの追求」という創業の精神

大関氏は、自社のすべての基本は「心地よさ追求業」という理念にあると話します。サービスという分野を通して、お客様一人ひとりの心に残る「心地よさ」という経験を創造し、その経験をお客様と絶えず共有し続け経験経済を追求する企業でありたいと考えています。いかに楽しんで頂き、喜んで頂き、心地よさを感じて頂けるか。心地よさを分かち合い、その気持ちを通して、お客様も私達も共に成長していく。これこそが私

bサイトである「Buzip社長tv」を開業し、100年企業に向けた歩みを着実に進み、今年で会社創立20周年を迎えます。

100年企業へ向けた決意

今年で会社創立20周年という節目を迎えた同社は、ここから第2ステージ(第2の創業)に入っていくなかで、より顧客視点を重視した「全員参加型経営」に取り組んでいます。社員全員が社長になりたいと思い、誰でも社長になれる会社を目指しています。その為には、一人ひとりが最善をつくし、チームとして「集合天才」になることと言えます。「社員・関係各社・お客様にとって『絶対必要な会社』を社員全員で創っていきます。」と100年企業へ向けた決意を話してくれました。

達が追求する心地よさ共有のゴールだと話してくれました。



大関泉氏 (右)

【取材を終えて】

今回の取材を通して、社員一人ひとりが主体性を持って行動することの大切さや難しさ、そこに経営理念の浸透が大きく関わっていると改めて感じました。
取材・記事 楠林 壮太氏
(塗り物アーティストがや・浜松支部)

(株)ジー・ディー・エス

〒432-8006 浜松市西区大久保町2840-1

TEL: 053-482-3768

URL <http://www.gds.co.jp>

創業 1997年

社員数 正規 36名 パート約200名

入会年月 2018年3月

事業内容 炭火焼肉「牛角」エリア FC本部(静岡県/甲信越エリア)

居酒屋「かまどや」エリア FC本部(東海/甲信越エリア)

飲食業コンサルティング

Buzip社長tv 静岡・長野・山梨代理店

「和風建築の技術」を広く伝え続けるため 貪欲に学ぶ

(株)磯辺建設
取締役 磯辺 嘉将氏 (富士宮支部)



作業の様子

祖父の想いを受け、経験せ 口の世界に飛び込む

磯辺嘉将氏は、住宅建築業を営む(株)磯辺建設の後継者です。入社前は全く異なる業界の工場で働いていましたが、ある日、創業者である祖父にガンが発覚します。昔から「お前にやって欲しい」と言っていた祖父の想いを受け、磯辺氏は転職を決意。10年前に営業職として入社しました。

しかし、建築業の経験はありません。初めはお客様との会話が成り立たず、本当に大変だったと、磯辺氏は振り返ります。必死に勉強して2級建築士の資格をとり、現場作業の知識や専門知識を身に付けて、やがてお客様の信頼を得られるようになりました。

学びを得るため、とにかく 活動に参加

磯辺氏には多くの経営者団体から誘いがありました。二代目社長であり同友会の先輩会員でもある父の「同友会のおかげで今の会社がある」という言葉が決め手となり、2017年に入会しました。同友会は、積極的に参加することと、たくさんの方の経営者の考え方を学べる貴重な場。「とにかく参加することが重要」と磯辺氏は考



磯辺 嘉将氏

えています。異業種だけでなく同業種の経営者ともざくばらんに仕事の悩みを話し合える会の姿は、大きな驚きだったそうです。

お客様との接点づくりに挑戦中

磯辺氏は自社の強みについて「祖父の代から脈々と受け継がれる技術」と語ります。同社は本格的な和風建築、寺社仏閣の建築も多く手がけている他、社員として大工を擁しているため、自信を持ってお客様に提案できるそうです。

しかし時代とともに、お客様の会社選びのしかたが変化してきています。折込広告やポスティングの効果は弱まってきており、不動産会社や設計士からの紹介も減りつつある、とのこと。そこで磯辺氏は、SNSの活用に取り組んでいる他、将来家を建てたいという人との出会いの場づくりにについても研究しています。

大切なのはお客様を大事に する姿勢

仕事の喜びについて聞くと、お客様の笑顔を見られること、と答えてくれました。毎日が気の抜けない仕事の連続できついことも多いですが、家が無事完成してお客様の笑顔を見ると、すべての疲れが吹き飛ぶそうです。「ある時、まだ図面も描いていないのに『契約する』』というお客様がいらっしゃってびっくり。理由を聞いたら、私の人柄が良かったとのこと。これは自信に繋がりました」というエピソードも話してくれました。



磯辺 嘉将氏 (右)

(株)磯辺建設

〒418-0001 富士宮市万野原新田4064-7

TEL : 0544-27-9197

URL : <http://kk-isobe.com>

創業 1957年4月

社員数 9名

入会年月 2017年3月

事業内容 一般住宅、事務所、店舗、工場、官庁等の建築、リフォーム、不動産

取材・記事
望月 知洋氏 (エムスタイル・富士宮支部)
田邊 元裕氏 (南奈タテデワークス・富士宮支部)

静岡財務事務所との意見交換会 事業承継の実状と課題を共有し意見を交わす

10月18日(木) 同友会会議室

10月18日(木) 同友会会議室にて、静岡財務事務所との意見交換会を開催しました。3回目の開催となる本年は、静岡財務事務所から山崎正晴所長はじめ6名、三島・島田信用金庫、同友会から井上・河合両代表理事はじめ12名、オブザーバーとして金融庁から2名、総勢22名が出席しました。



山崎正晴静岡財務事務所長

井上代表理事の開会挨拶に続き、山崎所長から「今年の意見交換のテーマである事業承継は、人手不足と並んで至る所で耳にする課題。中小企業の皆さんの生の声を聞き、金融機関を通じて地域を良くする手立てを考える良い機会としたい」とご挨拶がありました。続いて石川哲才総務課長から県内における地域連携の取組、川上正人財務課長から県内経済情勢、青木啓祐理財課長から金融行政のこれまでの実践と今後の方針についてそれぞれ報告がありました。



同友会からは、河合代表理事より同友会の理念、活動目的、組織について説明。また、指針成文化に対する取組や、九州・沖縄ブロックにおける信用金庫と同友会の連携の事例を紹介し、静岡でも同様の活動を行いたいと協力を求めました。その後、事業承継をテーマに意見交換が行われました。静岡同友会会員でもある高嶋正芳・三島信用金庫常務理事からは中小・小規模事業者の事業承継・生産性向上支援について、同じく三浦忠司・島田信用金庫理事からは事業承継の調査結果や地域連携の事例、中小企業の相談先について紹介がありました。同友会からは、M&Aも視野に入れた事業承継の助言や紹介、若者の起業を後押しする施策などを提言する他、地域の未来のためには中小企業家が経営指針書は自分の手で作ること、魂が込められ実効性が高まることなどを伝えました。



山崎所長からは、県内にある監査法人が行っている中小企業の支援は同友会の指針成文化運動と親和性があることや、事業承継に関して商工会と行政で悉皆調査の事例があること、情報収集の必要性などお話がありました。最後に賛成顧問代表理事が「事業承継は年齢を問わず経営者が考えるべき課題」と述べ、閉会しました。

参加者より



今回の意見交換会では、同友会会員より様々な意見が出されました。

東海財務局と金融庁の方々からの意見も聞きたいところではありましたが、時間の都合上、同友会からの意見や要望を伝えることで終わってしまった感もありました。しかしながら、東海財務局や来場された方々には、会員企業における事業承継の実例や、同友会で成文化を目指している経営指針書についての説明、その実践による実績紹介などをしっかりと伝えることができたのではないかと思います。マクロ的な政策で動いている方たちとミクロ経済の中で会社経営をしている会員とがこのような双方の意見を交換するための場を持ち、お互いが前向きに進んでいくために交流することは、実にいい機会だと感じました。今後も継続的に意見交換会を行い、もっと深く積極的に意見を出し合うことができれば、将来、大きなパワーを生み出す可能性を秘めているのではないのでしょうか。

増田 崇氏

(有)リアス・県経営労働委員長)

「県例会企画委員会」グループ長研修

座学と実践で学び合う

「グループ長・座長の役割とは」



稲原 研氏

10月10日
(水) プラサ
ヴェルデにて
グループ長研
修を開催し、

県下39名が出席しました。まず、養威頼氏(有)アサギリ・県副代表理事)が、座長は報告者と共に例会や分科会のテーマに対する学びや理解を深める大きな役割を担っていることを説明。続いて稲原研氏(松屋電気商会・県例会企画委員長)が、例会とグループ長の意義や役割、そしてグループ討論の進め方や討論の深め方を説明しました。その後、井上斉氏(ワシロック工業(株)・県代表理事)の「同友会と私(学びと実践)」をテーマとした報告を聞き、経営者の責任について3回の討論を行いました。

自分の考えに固執するのではなく、他の意見を引き出し取り入れ、自他共に納得する意見へとまとめあげるの、同友会の中だけでなく、自社の経営にも生かせるものだと、この研修で共有しました。

グループ長Ⅱ社長

支部例会のグループ討論で何度かグループ長を務めるなか、「グループ長Ⅱ社長」ということに気づきました。そこで、グループ長としてのスキルを上げ、自分に足りない客観力を身につけたいと思い、参加しました。グループ討論の雰囲気や満足度、討論の良し悪しがグループ長の手腕で大きく変わると思うと、とりわけ責任は重大です。しかし同時に、経営者の資質を高める近道でもあるのだと、改めて気づきました。

今回の討論は「経営者の責任」という共通のテーマに対し、3名が交替でグループ長を務めながら討論を深めていき、積極的意見を交わしました。一人のグループ長の持ち時間は15分で、時間内にまとめる事は容易ではありませんでした。

今後は支部例会で、テーマに基づいてメンバー一人ひとりから多くの意見(内に秘める思い)を引き出し、気付きを持ち帰ってもらい、更には実践のきっかけになる環境を作ること意識して、積極的にグループ長を務めたいと思います。そして、理想と現実のギャップを埋めていきながら、グループ長を通じての学びを自社の実践、自身の成長へと繋げていきたいです。

中村功尚氏(NK設備(株)・榛原支部)



グループ討論の様子

人を生かす経営4委員会(経営労働・共同求人・共育・障がい者問題)が合同例会を開催し、同例会を開催し、講師の永岡鉄平氏(株)フエアースタート/神奈川同友会・ダイバーシティ(副委員長)からは、養護施設等を退所した若者たちの現状や、そこに関わる中小企業の役割の重要性を話していただきました。続いて藤原博美氏(日本ベルト工業(株)・沼津支部)が、養護施設出身の社員を雇用している経験をもとに「経営者が一人ひとりの社員とどこまで向き合えるかが重要」と伝えました。2名による報告とその後、グループ討論を通じて、すべての参加者がそれぞれの立場から「人を生かす経営」の実践について考え合う機会となりました。

人を生かす経営4委員会合同例会を開催!

それぞれの立場から「人を生かす経営」を考える

10月30日(火) ペガサート

障がい者問題委員長より一言

4委員会合同開催は初めての試みでしたが「人を生かす経営」への関心の高さを感じました。人と向き合うことを常に考えている同友会だからこそそのテーマだったと思います。

人手不足に悩む中小企業と、就職難の養護施設。需要と供給はマッチするのですが、なかなか知られていなかったのが実情でした。チャンス wait っている人たちに、チャンスを与えられる経営者でありたいと願います。また、社会環境を改善していくことは、同友会3つの目的にある。よい経営環境をつくることにつながっていくと思います。他県では養護施設と協同した取り組みが盛んになっている中、障がい者問題委員会としても、静岡同友会での導入の第一歩にしたいと考えています。知ることから始まり、実践するのが同友会です。今後、養護施設の見学、仕事の相談会、企業の実習を進めて、この活動を県内全域に発展させていきたいと思います。

伏見修氏(株富士山ドリームビレッジ・障がい者問題委員長)

「人工知能が描く社会」

講師 静岡大学情報学部 准教授 狩野 芳伸氏

10月13日(土)



狩野 芳伸氏

狩野准教授からAIの現在についてのお話をお聞きました。AIは今までも何度もブームがあり研究者仲間では今度はどれくらい続くのかな、NHKが取り上げた終わりかな、など話題に挙がるそうです。AIの実用例も聞かれるようになりましたが、ブランド名として定着している場合や、事前にプログラムされたパターンへの対応に限られている場合がほとんどで、AIが自然な対話をしているのではないそうです。このように、一口にAIと言っても用語の使い方が曖昧で、先生は用語の厳密な意味を知ることが大切であると話しました。

自然言語処理を専門とする狩野先生は、司法試験の問題をAIで自動回答する、裁判の判決を自動化する、AIに東大受験の問題を自動回答させ合格させるプロジェクトなどを行っています。多くの事例をコンピューターに記憶させ、問題文を機械に理解させることを目指していますが、そもそも「理解する」とはどういうことなのかはつきりしていません。現在はいくつかの判例などから単語を抜き出し、主語、動詞などの解析をしてパターンマッチングをしているそうです。現時点でAIが到達しているレベルは、客観的な情報や判定のルールが明確な事柄に対する判断です。最終的に人間が判断しないと判別できない情報が含まれる事柄には使えません。

AI研究の今後の方向性は、人間の脳の仕組み、働きを研究した方が近道なのではないかともおっしゃっていました。急速に進化していることは事実ではありますが、まだまだ人類がAIに減ぼされる時代はこないように感じました。

望月 宣典氏

(清水クレジット㈱・静岡支部)

静岡大学連携講座

第2講

「ビジネスモデルの変革で時代の波を乗り切る」

講師：寺田 卓正氏 (株)ニューウェーブ 10月10日(水)



寺田 卓正氏

大学時代の転機から、独立するも全く稼ぐことができなかった創業期、外に目を向けることで次の転機を自ら創り出し、経営指針を創る会への参加を通して自社の理念を見直したことを話しました。キーワードは「情熱」。学生に、外に出ることでの周りの環境を変えることができ、自分の意識も変えることができるとメッセージを伝えました。

第3講

「大企業と中小企業の実践的考察」

講師：高木 基氏 バリュー・トークイ(株) 10月17日(水)



高木 基氏

大手企業への勤務を経て起業し、三島市・静岡市で保険代理店を経営する高木氏。自身の経験を踏まえ、大手・中小企業の姿と約40年の社会の動きを話しました。今ある企業が未来も全く同じとは限りません。大企業・中小企業の一般論で判断するのではなく「未来を見据え、自分が求める働き方や、これから何が必要とされているのかを深く考えることが必要」と学生に伝えました。

第4講

「情熱を大切に、認め合うチームデザイン」

講師：津賀 由布子氏 (有)サンディオス 10月24日(水)



津賀 由布子氏

販促広告制作会社を営む津賀氏は、父親の会社を継いで経営者になった直後に三つ子の妊娠が発覚。悩んだ末に出産を決意しますが、職場を長期離脱することになりました。復帰してから、津賀氏は社員を家族と考え、互いに認め合い、ビジョンを共有し、それぞれの夢が自社で実現することを目指しています。学生に向け「夢を実現させるためには思いを描き、今いる場所で自分の花を咲かせよう」とエールを送りました。

第5講

「ハタラク」社会的価値

講師：吉村 峰仙氏 吉村峰仙公認会計士・税理士事務所 10月31日(水)



吉村 峰仙氏

新卒で入社した前職が商社の営業だった吉村氏は、社会に出て働くやりがいを持ちました。しかし、営業した得意先の倒産から、自身が知識を生かして企業をサポートすることを目指します。学生には、企業が提供すべき経済的価値と社会的価値を紹介し、我々が「ハタラク」ことで「傍」を「楽」にできるのだと、就職活動を控えた学生が将来を考える講義となりました。

11月・12月

DOYU CALENDAR

11月16日(火)～12月15日(木)

11月 16日(金)	「イントロセミナー～同友会と私」 (19:00 同友会事務局)
19日(月)	経営指針を創る会 (19:00 同友会事務局)
20日(火)	浜松例会 (19:00 ザザシティ中央館5F)
21日(水)	障がい者問題委員会 (19:00 同友会事務局)
24日(土)	静岡共学ゼミ (14:00 かまくら文庫)
28日(水)	理事会 (17:00 同友会事務局)
29(木)～ 30日(金)	青年経営者全国交流会
12月 7日(金)	志太忘年例会 (19:00)

8日(土)～ 9日(日)	経営指針を創る会 (時之栖)
8日(土)	同友会大学 (14:00 同友会事務局)
10日(月)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局) 県総務財務委員会 (17:00 同友会事務局)
11日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
12日(水)	御殿場忘年例会 (19:00)
13日(木)	共育委員会 (19:00 同友会事務局)
14日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川)

《あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください》



「同友エコ2017～2018」に静岡同友会から4社が表彰！

2018年10月19日に中同協地球環境委員会が開催され、2017年から2018年にかけて1860社の応募があった「同友エコ2017～2018」の審査結果が発表されました。2社が表彰された地球環境委員長賞には、静岡同友会の(株)育暮家ハイホームス(志太支部/寺坂 磨氏 代表取締役)が選出されました。同社では、日本らしい暮らし文化により育まれる住まいを家づくりの最終目標とし、その前提として1985年代のエネルギー使用量で済む家づくりに取り組んでいます。

また、27社が表彰された同友エコ奨励賞には、静岡同友会から松葉倉庫(株)(志太支部/松葉 秀介氏 代表取締役社長)、カネ正建設(株)(榛原支部/飯田 尚司氏 会長)、オーツービジネス(有)(榛原支部/岡村 知洋氏 専務取締役)の3社が選出されました。

「同友エコ」は、(1) 地球温暖化を食い止めるため、中小企業家として自主的取り組みを推進します。(2) 持続可能な社会づくりに向けた産業構造の転換をふまえた企業革新を強化します。(省エネ・環境保全型企業づくり、新たな仕事づくりと産業モデルの創造)(3) 中小企業家の社会的存在意義を高め、中小企業憲章制定運動の一環として取り組みます。(4) 中小企業家による先進的な環境経営への取り組みを、全国で交流・発信しよう。という4つの目的のもとに、2009年の中同協全国総会で提唱されました。エネルギーシフトにも通ずるこの活動に、ぜひご参画ください！



静岡同友会
Facebookページ



静岡同友会Facebookページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL:054-253-6130(代表) FAX:054-255-7620 <http://www.szdoyu.gr.jp>